



<センター試験説明会が実施されました>

10月の進路関係行事

- 3(木) 第3回定期試験[~8(火)]
- 8(火) 共通ID説明会②
- 10(木) 芸術鑑賞会(4~7授業と放課後課外なし)
- 11(金) 進路講演会③
模擬裁判②
- 12(土) 進駿記述模試③
駿台①②
- 13(日) 大学別模試③
- 14(月) 体育の日
- 16(水) 公開授業(pm)
推薦委員会(5)
- 17(木) 公開授業(pm)
- 19(土) 全統記述模試③
- 20(日) 大学別模試③
- 21(月) 職員会議
- 22(火) 即位礼正殿の儀
- 23(水) 三者懇談期間①②
[~11/14]
- 25(金) 大学別模試③
- 26(土) 新人大会・大学別模試③
- 27(日) 新人大会
- 28(月) 学校創立記念日(諸活動休止日)
F講座(校外)

※○数字は学年を示します

夏休みが明けてあっという間にひと月が経とうとしています。今年は7月が長梅雨の関係であまり気温が上がらず、比較的涼しかったのですが、8月からはいつもの猛暑が続いていました。この時期になると、毎年思うのですが、夏が暑ければ暑いほど、朝夕などに不意に涼しい風が頬をかすめるようになると、なぜだか寂しい気持ちになるものです…。冬服で登校する生徒も目にするようになり、いつの間にか日が暮れるのも早くなってきました。季節は少しずつですが、確実に夏から秋へと進んでいるのですね。生徒のみなさんは、この時期に自分の生活に対する振り返りをしてみてはどうでしょうか。これまでの学校生活を振り返り、残る半年を有意義に過ごしていくための生活リズムや勉強の仕方などをぜひ見直して欲しいと思います。

さて、9月6日(金)のフロンティア探究の時間を利用して、3年生を対象に大学入試センター試験の説明会が実施されました。説明会では、実際に使用する願書を全員に配布し、その後、進路担当の水谷先生から、7月に東京で行われた説明会の内容をもとに、願書の記入の仕方や検定料の納入の仕方などについて丁寧な説明が行われました。今年は10月1日が大安吉日ということもあり、その日に一括して出願を行う予定です。これからの日程については、以下の通りとなっています。



センター試験スケジュール

出願：9月30日(月)~10月10日(木) 現役生は高校で一括出願**確認はがき(出願受理通知)の送付：10月28日(月)まで****受験票等の送付：12月16日(月)まで****大学入試センター試験本試験実施：1月18日(土)・19日(日) 県内各会場**

現3年生が受験するセンター試験が、現行の「センター試験」としては最後となります。願書の記入など、出願に当たっては確認しながら、ぜひ慎重に行なって欲しいと思います。また現2年生からは「大学入学共通テスト」に変更になりますが、出題の内容や仕方については多少の変更はあるものの、試験そのものの実施や運営についてはセンター試験と同様となると考えられます。現2年生、1年生は先輩が受験に向かう様子を参考にしながら、自分たちの受験についてどのような変更があるのか、学習と平行して情報収集にも努めて欲しいと思います。

<英語の民間試験利用について思う>

9月16日(月)付の朝日新聞の1面に、「英語の民間試験「問題ある」65%」という見出しの記事が掲載されました。これは、朝日新聞と河合塾の共同調査「ひらく 日本の大学」により明らかになったそうですが、その調査によれば、2020年度から始まる大学入学共通テストで英語の民間試験を活用することについて、「問題がある」と考える大学が65.4%あり、**昨年の調査よりも大幅に増えた**と述べられています。同新聞記事によると、**高校への調査では、実に9割近く(89.1%)が「問題がある」と回答**しており、現在、進められている英語の民間試験の活用については仕組みが複雑な上、様々な問題が指摘されているにも関わらず、その解決の見通しが立っていないため、大学、高校などの教育現場で不安が高まっていると述べられています。ここで、英語の民間試験について、まだあまりよく分からないという人のために、簡単にまとめておきたいと思います。

英語の民間試験利用とは

2020年度から始まる大学入学共通テスト(現高校2年生が受験する)で活用される。これまでのセンター試験では「読む」「聞く」の2技能がテストの中心だったため、英語の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を評価できる民間の6団体が行っている7種類の試験の成績を大学入試に利用する仕組み。原則として**高校3年生の4月から12月に2回受験した成績が、成績提供システムの共通IDにより管理**されて大学に提供され、**各大学が、出願資格・点数化・加算などそれぞれの仕方で活用**する。

では、一体何が問題なのでしょう？考えられる問題点についてもまとめておきましょう。

民間試験利用の問題点：

制度設計…選ぶ試験によって不公平が生じる可能性あり。異なる試験の点数を無理に比較している。

試験の運営…公正公平な試験運営ができるか？採点の質は？高校の学習指導要領と整合性がない試験も。

受験生の負担…受験料が高く、受験会場も限定(交通費・宿泊費)、試験日程が学校行事等と合わない。

マイナスの効果…スピーキングテストで得点≠話せる。読む力は落ちる可能性あり。他教科の力も落ちる可能性。

制度導入…利益を得るのは受験生と言えるか？導入準備の遅れ。高校・大学・予備校などから強い懸念・反対。

ここまでの内容を読んで、どのようにお考えになるでしょうか？私はひとりの英語教師として、また進路を担当するものとして、現在の英語の民間試験の利用には、多くの未解決の問題があり、2020年度入試から導入するのは拙速であると思っています。現在の制度設計では、**公平公正な試験実施そのものに不安**があり、また**家計や居住地による受験機会の格差なども懸念**され、この制度改革が一体なぜ行われなければならないのか、腑に落ちないというのが正直な感想です。

英語教育という観点から言っても、民間の試験を入試に使うと、**みんな英語ができるようになる**というなら、こんな簡単なことはありません。英語教育で定評のある某先生は「走り高跳びのバーの高さを上げると、みんな高く跳べるようになると思っているのと同じことでは？」と、英語の民間試験利用について述べていました。思うに、試験を変えたりできるようになるのではなく、「試験のための勉強」をするようになるだけではないでしょうか？英語の4技能を伸ばす指導は非常に大切なことです。英語は教科である前に言語ですから、「読めて、聞けて、書いて、話せる」ことは当然必要です。だから、英語の4技能指導は進めるべきです。ただ、大学という学問研究の場においては、「英語で書かれた論文を読み、自分で論文を英語で書く」ことが求められます。それを考えれば、高校でこれまで行われてきた指導内容そのものが悪いのではなく、むしろこれまでの指導が徹底されていないことの方が問題なのではないかと思います(自戒を込めて…)。かつて日本の英語教育は、「文法偏重、英文訳読方式でダメだ」と言われたことがありました(今でも言われている?)。しかし、現状を見ると、文法が身につかず、英文を訳すことすらできない生徒が多いように思われます。その状況で「中身のあるスピーキング」ができるとはとても思えないのですが…みなさんはどのように思われますか？